

第2部

グリーンランドにおける 自然と人類の歴史

第2部ではグリーンランドの自然と人類の歴史を紹介します。

グリーンランドの自然

グリーンランドの約80%は1年中、厚い氷床で覆われており、もっとも厚い部分は3千メートルを超えます。しかし、海岸近くは雪氷が少なく、夏季になると氷が解け、地表が姿を現します。

薄い雪氷に覆われた沿岸地域では、7月から10月にかけて雪が全く見られない場所もあります。土手に多少の草木が見られるものの、景観は単調で、荒々しいといえます。

ツンドラ気候に属するグリーンランドでは温帯や熱帯と違って高木や草木が繁茂しません。その理由は、冬季の寒さや日照時間の短さのためでなく、地面の滋養分が極端に少ないからです。ホッキョクヤナギがたった数センチ生育するために何十年もの歳月がかかるほどです。

人間が住むには厳しい自然環境ですが、グリーンランドおよびその周辺の海域にはさまざまな種類の動物や鳥、魚が生息しています。代表的な海の動物は、ザトウクジラ、ミンククジラ、ホッキョククジラ、シロイルカ、イッカク、ワモンアザラシ、ズキンアザラシ、アゴヒゲアザラシ、タテゴトアザラシ、セイウチ、オヒョウ、サケ、タイセイヨウタラなどです。代表的な陸の動物は、野生トナカイ、ジャコウウシ、ホッキョクギツネ、ホッキョクウサギなどです。代表的な鳥は、ガン・カモ類、シロフクロウ、ウミスズメ類などです。

人類のグリーンランドへの進出と人類の歴史

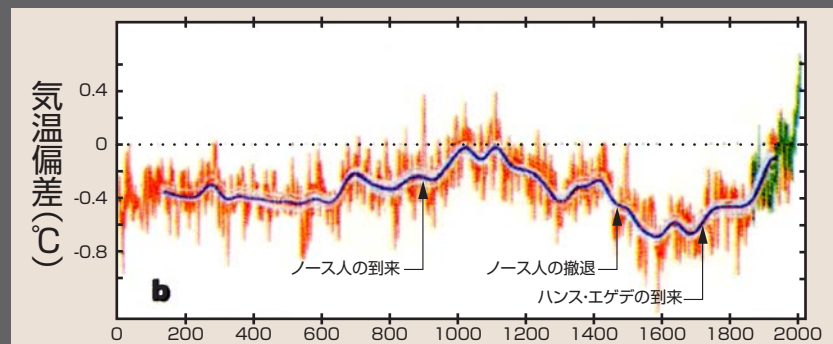
考古学の研究成果によると、グリーンランドには今から約4500年前には、すでに人間が生活していました。彼らはアラスカからカナダ極北地域を経て、グリーンランドにやって来た人びとでした。考古学者ビャーネ・グロンノウ(Bjarne Grønnow)博士によると、グリーンランドの文化史はそれぞれの特徴から、ほぼ表1のように分類できます。

時期	文化期の名称
紀元前2400年～紀元前1900年	インデペンデンス文化とサッカック文化
紀元前1900年～紀元前800年	サッカック文化とプレドーセット文化
紀元前800年～紀元前400年	サッカック文化と初期ドーセット文化
紀元前400年～紀元1年	ドーセット文化
紀元1年～紀元700年	グリーンランド無人期
紀元700年～紀元1300年	後期ドーセット文化とノース文化
紀元1200年～	チューレ文化(現代のイヌイット文化の形成母体)とノース文化(紀元1450年に消滅)

表1 グリーンランドの文化史略表

(情報提供者: デンマーク国立博物館のBjarne Grønnow博士)

サッカック文化とドーセット文化とチューレ文化には、狩猟道具や住居などの物質文化の上で断絶が見られます。さらに最近のDNA研究によって、この文化変化は人間集団の交替を示していることが分かりました。そしてこの人間集団の交替は、地球の温暖化と寒冷化に深く関わっていました。



北半球における西暦200年～2000年における気温の変動

出典: Anders Moberg et. als. 2005 "Highly variable Northern Hemisphere temperatures reconstructed from low- and high- resolution proxy data" Nature 433(1026)の616ページの図表2を加工